

実践記録

111

シリーズ



ちょっと太めなサンタさんは、だれ？

保育園と公民館との協働活動

論文が苦手なので問答形式にさせていただきました。県内の皆さん、ご一読いただければ幸いです。

———そもそも発想の出発点は？

ひと言でいえば、北谷公民館で実施したいと考えていた子育て支援の事業と、名木野保育園（市立）の年間行事の融合ですね。施設そのものは同じ町内にあるんですが、それぞれが独自に、内容としては類似の取り組みを行っていたわけで、公民館は「参加者が集まらない」、保育園は「地域に広がらない」と悩んでいる。だったら、お互いが把握している人材や学習素材、持っているノウハウを提供し合って、一緒に活動してみましょ、ということなんです。

———具体的な活動内容としては？

主なイベント・催しは、次のとおりです。

6月：全国訪問「おはなし隊」キャラバンカー
(本とのふれあい)

8月：夏休みわくわくオープンスクール
「やんちゃ〜ず祭り」(園児の手づくりの来店)

12月：きらきらママが贈る「ワン・コイン・クリスマス・コンサート」(歌や踊り、親子遊び)

3月：「子育てフォーラムin北谷」(トーク&コンサート、パネルディスカッション)

このほか、公民館ロビーでの七夕かざりに園児が協力してくれたり、広報紙『北公だより』で保育園の活動・行事報告などを随時、地域の話題として取材記事にして掲載したりしていますね。



キャラバンカー



やんちゃ〜ず祭り



クリスマス・コンサート



子育てフォーラム

———こだわりや心がけていることは？

もちろん活動メニューです。…が、まずはPRですね。「保育園だより」や小学校へのチラシ配布と

見附市北谷公民館 総括主査 長谷川裕恭

いった保護者や子どもたちへの直接的なPRのほかにも、『北公だより』、「広報見附」(市広報紙)、市役所ホームページ、市内ミニコミ紙に情報を掲載して一般の参加募集もすると同時に、多くの人たちに活動が伝わるように心がけていますね。

それと、ネットワーク、協力関係づくりですね。市内で活躍する子育て応援ボランティア「きらきらママ」は、同会の活動の一環として位置づけてくださり、運営の中心となってかかわってもらいましたし、保育園の保育士はもちろんのこと、事業によっては、青少年ボランティアバンクを通じてボランティアの小学生から協力を得たりもしましたね。

———どんな成果が挙がっていますか。

まず一つは、子どもたちの体験活動に広がりができましたね。メニューの面もそうですし、園児や保護者以外の一般参加を呼びかけたことで、就園前の小さい子や小学生などとふれあう機会になりましたから。2つめは、いろいろな団体・機関との協力関係が築けたこと。前述の「きらきらママ」や市子育て支援センター、青少年ボランティアバンク、子育てフォーラムにお招きした「にいつ子育て支援センター・育ちの森」のスタッフである「NPO法人ヒューマン・エイド22」の皆さん、そして名木野小学校とのつながりも大きいですね。

もう一つは、公民館と保育園の双方が効率的に行事を実施できたことです。新規の取り組みを立ち上げるばかりでなく、お互いの従来からの行事を有機的に融合させることができましたから。それに、『北公だより』で区内全世帯に随時お知らせをしてきたので、日ごろの活動をより多くの住民の皆さんに知ってもらうきっかけになりましたね。

———今後の課題とその対策は？

この取り組みには「公民館と保育園の方向性や利害がたまたま一致した」という側面がもちろんあります。ですから、今後、区内の他の保育園や小・中学校に向けて、いかにして前向きに、そして「無理なく」連携の輪を広げていくかが課題ですね。

まずは、今後もこうした取り組みを地道に行って実績を積み重ねることでしょうね。ちなみに今年度は「食育」をテーマに名木野保育園との年間行事を組んでいるんですよ。そして、保育園、学校だけでなく、地域住民の皆さんにももっと活動に興味を持ってもらえるよう、PRや報告などの情報を積極的に発信していきたいですね。